

岩崎酒店 糰屋便り

2014年10月号
NO.4

発行者：岩崎酒店 川崎市高津区溝口 3-11-15 TEL：044-822-2027 営業時間：10～20時
定休日：毎週火、毎月第2・3月曜 <http://www.mmjp.or.jp/kouji-ya/>

いつも当店をご利用頂きありがとうございます。今年もすっかり秋の気配に満ちて来ましたね。皆様体調管理には十分お気をつけ下さい。

さて、私の無精により久しぶりの糰屋便りとなりますが、お読み頂ければ幸甚です。今回は「首都圏への人口集中問題」について最近いろいろ考える事が多いので、私なりの考えを書いてみたいと思います。

異常と発表された今夏ですが、今後はこのような気象が通常になりそうです。そんな異常気象や大地震が引き起こす大災害の時の避難についてよく報道されています。そこでいつも考えるのは、首都圏のような人口過密地域では、災害により甚大な被害が出た場合、多くの人が避難できる場所がいったいどこにあるのかということです。長きにわたる悪税制で、都市部では古き良き建物や価値ある土地は次々となくなっていきました。経済成長と税収入だけを考え、地域性を無視した開発が各所で過度に促進され、それにより人口が集中した都市部とりわけ首都圏では、もはや避難できるような有効な土地や建物が十分になくなってしまいました。利権が絡むのか国や県なども自ら国民の貴重な土地を売って開発させてしまいますのですから、もはや話になりません。ですから、一所懸命時間をかけてどんな災害対策を考えても、結局は避難場所がないのですから意味がありません。災害対策を考える前に、まずは根本的な事を考え直さなくてはならないと思うのです。

様々な原因から首都圏には異常な人口流入が続いています。そんな都市部は人口集中により、一見便利で効率的で経済的にも潤っているかにみえます。しかし現実には都市の大人も子供も過度な競争に巻き込まれて、物価・地価の高騰や生活環境の悪化で高コスト・高ストレス社会になり、便利な都市が形成されて受ける恩恵はごく一部にとどまっているように思えます。便利な世になればなるほど、どこかにそのしわ寄せが来るのです。必死に働いて得たお金も高い生活コストに多くが消えていきますから、自分達が求める本当に価値ある事に使えるお金は多くありません。こんな状況で都市に住む人々は本当に幸

せと言えるのでしょうか。

今度の改造内閣では選挙目的とはいえ、地方創生が大きな課題の一つになっています。首都圏に人口集中する一方で、地方では若者が減り著しい高齢化と人口減少が起っています。若者が故郷を離れる事は必ずしも本意ではないはずですが、都市から見れば地方には魅力あるものを多く感じます。もちろん簡単ではないでしょうが、なんとか地方と都市が均衡を保てる、言い換えれば都市も地方もないような状態になればと思います。バランスよく全国に人が住み、ゆとりのある日本らしい国作りを一刻も早く取り戻すべくスタートして欲しいと思います。

ところで、この問題は地域に根ざした地方の酒蔵さんの商売とも深く関係します。人口減少により地元での消費減少が続いている地方の酒蔵さんの中には、当然生き残りをかけて人口が集中する都市部に販路を求めてくるケースが増えています。マーケットが首都圏に集中すれば、いずれ消費も飽和状態になりますし、それまで長きに渡り地元の風土に合わせて作られてきた個性ある味わいのお酒も、伝統的な日本酒らしい味わいが無くなり、ただ飲みやすい、香りがよだけの都会向きで人工的なものになっていきます。地酒とは言いながら地元の食卓にはほとんど上がらず、多くを都市部の飲食店などで消費される逆転現象を起こしているものも少なくありません。これも販売戦略と言えもちろんそうですが、私の中ではこれを地酒とは呼べません。このままでは、地元の人が晩酌で地元の酒を飲み、時に都会から来た人がその風土で長年育った酒に酔いしれる、そんな光景がそう遠くはない将来になくなるかもしれません。

地方でも都市でも、本当に価値のある良いものが普通に認められる世の中にならなくてはなりません。もちろん人それぞれの価値観は違います。しかし、少なくとも今の世のそれがいいとはとても思えません。私もかなり微力ではありますが、お酒の商売を通してこの問題の解決に貢献したいと考えています。

皆さんはいかがお考えでしょうか。お付き合い頂き有り難うございました。